

# 日本ボストン会会報

発行所 日本ボストン会事務局 ②27-0045横浜市青葉区若草台8-28 Fax 045-962-0866

## ボストンへの松坂・岡島効果

ボストン日本人会会長 久保田康夫

去年の11月14日、ボストンと日本の関係に大きな変化がありました。ボストン・レッドソックスが松坂大輔投手との交渉権を獲得したのです。

勿論、それまでも小澤征爾さんなどを通じて、日本との繋がりがあったボストンですが、野球のこととなると桁が違います。それも6500万ドルという大金を払っての交渉権です。皆様ご存じの通り、その1ヵ月後には正式にレッドソックスと契約を結びました。そして、ほぼ同時に「もう一人の日本人選手」、岡島秀樹投手もレッドソックスの一員になりました。

この松坂騒動でボストンに住む日本人の生活も大きく変わりました。ボストン日本人会にも、日米のメディアからの取材の申込みが殺到し、役員の間でメディア対策を話し合うこともありました。ボストンの街にもあちこちに日本語の看板が見られるようになり、シーズン開幕に向けてムードは高まるばかり。日本からのメディアの皆様をボストンにお迎えするレセプションなども開催されました。

そんな中での4月11日の松坂投手の地元初登板の際、Fenway Parkの近くのスポーツバーGame Onにボストンの学生を中心に30人以上が集まり、松坂投手の応援をするイベントを行い、日本の各テレビ局並びに新聞社の取材を受けました。ちなみにその日の試合の始球式では鈴木庸一総領事が素晴らしい投球を披露されました。

ボストン日本人会だけでなく、Japan Society of Bostonも5月31日のAnnual Dinnerは“Solute to the Boston Red Sox”と題して、レッドソックスのチェアマンであるTom C. Werner氏、そして岡島秀樹夫妻をゲストとして迎え、盛大なるパーティを行いました。会場はFenway Parkをモデルに飾りつけられ、チャリティオークションにはサインボールなどが出品されました。岡島選手の挨拶の際には大きな声援が起こり、松坂選手だけでなく、岡島選手への期待の高さも如実となりました。

街中でも、特にFenway Parkの周りには日本語が沢山見られるようになりました。日本語のTシャツや応援グッズは勿論、看板にも「ボストンようこそ」「最高のスポーツバー」などと書かれています。日本語のメニューを用意しているレストランも多くあります。街を歩いていると、アメリカ人から、松坂、岡島選手の活躍を「どうもありがとう」と声をかけられたり、日本での松坂選手の人気について聞かれたりします。

レッドソックスのテレビCMも一番の主演は松坂選手。恥ずかしそうに英語の台詞を言っています。日本からボストンを訪れる観光客も飛躍的に増えました。レッドソックスも日本からのお客さんに対応するために、チケットオフィスやプロショップで日本人の職員を採用しています。

そんな中、当然のように、「松坂選手の後援会を作ろう」と言う声が出始め、松坂選手に限らず、岡島投手やこの先、レッドソックスに所属する日本選手を応援する会と言うことで、「レッドソックス日本人選手後援会」が7月に発足しました。

高橋一彦前日本人会会長を中心に、現在の日本人会役員やレッドソックス愛好会のメンバーが基盤になり、少しずつ活動を開始しています。

8月29日にはニューヨーク・ヤンキース戦をテレビ観戦するイベントを初めて行いました。会員証を発行されたメンバーの数も8月の終わりにはすでに200人を超え、ボストンにお住まいの皆様への関心の深さが伺えます。

シーズンが終わりに近づくにつれ、地区優勝、プレーオフ、そしてワールドシリーズへの期待が高まっています。ボストンでの1年目はレッドソックスの選手としての活躍だけでなく、それ以上に日本とアメリカの交流への貢献が高かったように思います。松坂・岡島両選手には、これからも日本語学校訪問やチャリティ活動などを通じて、地元日本人社会との絆をますます強くして、長年にわたって活躍されることを期待しています。

今年の総会・懇親会は11月22日(木)に開催します。於NEC三田ハウス芝クラブ(12頁参照)

観桜会報告

2007年千鳥ヶ淵

さくらの口上

水野 賀弥乃

黒い太い幹に、小さな小さな桜花が、ここにも一輪、あそこには二輪、申し訳なさそうに顔を出して迎えてくれた今年の千鳥ヶ淵の観桜会は3月24日に開催された。

「今年は皆様のご期待に添えず、ごめんなさい。もう少し暖かくならなければ、みんな出てこれないのです。」こんな口上が聞こえてきそうな、可憐な桜花に出会えたのは、新たな喜びであった。人混みがなかったからこそ、一輪一輪を愛でながらグルリと巡ることができた。

日本ボストン会の観桜会のお陰で、毎年千鳥ヶ淵の桜の様々な姿を知ることができ、その度毎の喜びや発見があり、大変有り難く思っている。

懇親会記念写真

生憎のお天気にもかかわらず美しいお着物姿のご婦人方が数名いらしてた。桜の代わりに華となっていてくださったことに感激して思わず見とれていた。中でも佐々木様と一緒に参加された樋口様の桜の帯は、桜に出会えなかった私たちの心を大いに満たしてくださった。

生田英機幹事のもとに数名の参加者がそろい、予定を早めて懇親会会場へと向かった。4月1日に予定なされた幹事に、「早い方が宜しくないか」と進言したのが、私一人ではなかったことが懇親会にて判明して、心苦しきの荷が何分の一か減った。

ピーター・グリーリご夫妻を観桜会にお誘いできたことも偶然からだった。ぎりぎりまでお越しになれるか判らない状況であったが、ご夫妻がご友人のバット・ガーシック様を伴っていらしてくださることが出来、観桜会以上の盛り上がりとなった。

今年の懇親会場では、日米の絆と、人と人とを結ぶ花が沢山咲いた思い出深い希有な夜となった。

日本ボストン会の観桜会を通して、多くの会員がボストン愛する心、桜を愛する心で結ばれて、より豊かな交流を得られんことを祈っている。また来年もお会いできますように。

可愛いさくらさん、また来年、沢山お会いできますように！



『歌の作者は誰でしょう』

(3頁参照)

- ①咲き満： 足利義政
- ②花の雲： 松尾芭蕉
- ③旅人の： 与謝蕪村
- ④銅像に： 正岡子規
- ⑤コライの： 川端茅舎
- ⑥番町や： 高浜虚子
- ⑦世の中： 木戸孝允
- ⑧葉桜の： 篠原梵
- ⑨ゆで卵： 中村汀女
- ⑩花ごろ： 杉田久女
- ⑪花の色： 小野小町
- ⑫世の中： 在原業平
- ⑬おんれ： 小野老
- ⑭久方の： 紀友則
- ⑮願わく： 西行法師
- ⑯敷島の： 本居宣長
- ⑰高砂の： 与謝野晶子
- ⑱桜花： 岡本かの子
- ⑲清水へ： 権中納言  
まさふさ
- ⑳逆光に： 俵 万智子

撮影者 篠崎氏  
西川氏  
関氏  
幸野夫人  
幸野夫人  
関夫人  
森氏  
森夫人  
水野さん  
水野さん  
生田氏  
藤崎夫人  
藤崎夫人  
生田氏  
鶴野さん  
藤崎夫人  
鶴野さん  
保野氏  
藤崎夫人  
鶴野さん  
保野氏  
島田夫人  
島田夫人  
菅間副会長  
菅間副会長  
藤崎副会長  
藤崎副会長  
佐々木顧問  
佐々木顧問  
鶴夫人  
鶴夫人

## 観桜会懇親会 (3月24日開催)

午後6時になると参加者が続々と九段会館会場に参集した。幹事(生田)の司会で開会、鶴正登会長はご挨拶で観桜会を繰り上げたことにかまけて、会社を親父から受け継いだ時に、社長は自分の考えは皆が出たところで意見を言えと言われてきたが、今年は観桜会の繰上りの話が出たときに、直ぐに何方の意見も出て来なかったもので、早くしたらといったばかりに繰り上げが決定され、早過ぎた花見のことを残念がっておられました。

乾杯は佐々木浩二前会長にお願いして、日本ボストン会、および提携関係にあるボストン日本協会(Japan Society of Boston)の益々の発展と会員のご健勝を願って乾杯の杯を上げていただき、懇談に移りボストンからの賓客の到着を待ちました。

ボストン日本協会会長ピーター・グリーン夫妻、およびMITのジャパン・プログラム・マネジング・ディレクターのパット・ガーシックさんの3人は午後7時10分過ぎに成田から到着されました。

同会の会員でもある関直彦氏がグリーン会長を紹介されました。グリーン会長からは、2週間程前に水野賀弥乃さんから観桜会のことを聞いたので参加を希望したことを述べられ、同協会が今年102周年を迎えるが、総会に幹事会の皆さんの参加をお迎えしたいのご挨拶を戴きました。グリーン会長は、自らをノミの夫婦と述べて背の高い夫人を紹介され、今年の桜が遅いことを恥ずかしがり屋のBOYに例え、明日もう一度お花見をしたいと語られました。

日米関係について松坂大輔投手のRED SOX加入にふれて、昨年暮れに日本から受け取ったクリスマス・カードには98%の人が松坂選手のことを触れていて、切符は買えますかと書いてこられたそうです。岡島秀樹投手の出来も素晴らしい、日米関係もベース・ボールで変わるとまで言い切っておられました。因みに同じチームのシーリング投手も日本語の勉強を始めたとか、同協会の日本語コースにも日本語勉強を希望する生徒が増えているとのことです。またRED SOXの試合を見にボストンに来て欲しいとも期待を述べられました。

MITのパット・ガーシックさんは2歳から日本で育ち、グリーン氏も5歳から日本で育ちで同じ小学校で、旧知の中であると紹介されました。MITには20年いるが、学生を日本の送る他に、アニメが好きで、日本のソフト・ウェア・プログラムも紹介したいと語られました。

その他、当日初参加の島田夫人や佐々木顧問の秘書の熊野さんも自己紹介をされて、楽しい一時を過ごしていただきました。

この後、幹事が準備した詩歌の作者探しのクイズ(別項参照)が参加者に配られ、時間の関係から、承知している作者名を挙げてもらい、観桜会の雰囲気盛り上がりしました。

さらに、当日午後には桜景色をスケッチする会の参加者の作品紹介があったが、開花がおくれていたので桜の幹を描いた作品も紹介されました。

最後は、午後8時過ぎに、藤盛紀明副会長のご発声で、3本締めの手拍りで懇親会を閉会しました。

(生田英機記)

### 『歌の作者は誰でしょう』

- ①咲き満ちて 花より他の 色もなし
  - ②花の雲 鐘は上野か 浅草か
  - ③旅人の 鼻まだ寒し 初桜
  - ④銅像に 集まる人や 花の山
  - ⑤ニコライの 鐘が鳴りだす 桜かな
  - ⑥番町や 館館の 花曇
  - ⑦世の中は 桜の下の 相撲かな
  - ⑧葉桜の 無数の中の 空騒ぎ
  - ⑨ゆで卵 むけば輝く 花曇り
  - ⑩花ごろも 脱ぐやまつわる 紐色々
  - ⑪花の色は 移りにけりな いたずらに  
我が身世にふる 眺めせしみに
  - ⑫世の中に たえて桜の なかりせば  
春の心は のどけからまし
  - ⑬あおによし 奈良の都は 咲く花の  
薫(におふ)が如く 今盛りなり
  - ⑭久方の 光のどけき 春の日に  
しづ心なく 花の散るらむ
  - ⑮願わくば 花の下にて 春死なむ  
その如月(きさらぎ)の 望月のころ
  - ⑯敷島の やまと心を 人とはば  
朝日に にはふ 山桜
  - ⑰高砂の 尾上(おのえ)の桜 咲きにけり  
とやまの霞 たたずもあらむ
  - ⑱桜花 命一杯に 咲くからに  
命をかけて 我が眺めたり
  - ⑲清水へ 祇園をよぎる 桜月夜  
こよひ逢ふ人 みな美しき
  - ⑳逆光に 桜花びら 流れつつ  
感傷のうちにも 木は育ち行く
- (回答は2頁参照)

## 大津一湖都の路 ～新緑の古社寺めぐり～

酒井一郎

昨年の総会の会話の中から、“歴史を飲む会”、“美術の会”の幹事の間で、予てから持ち越しになっていた琵琶湖周辺の社寺の訪問・鑑賞を合同開催でやろうということになりました。

美術の会としては、2年に1度名古屋ボストン美術館を訪問、美術鑑賞を過去3回、1泊2日で実施し、名古屋在住の久米生光さん、清水建設の内藤克巳さんに大変にお世話になり、美術館以外の名古屋およびその周辺のご案内をいただきました。

来年はどうするかと思っておりましたので、この合同企画に乗ることにしました。三好彰さんは大津のご出身で琵琶湖方面は詳しく、企画段階から積極的にご参加をいただきました。(別項参照)

篠崎史朗さんは三井寺(法明院、フェノロサの墓)に強い関心をお持ちでした。(別項参照)

そこで、三好さんの話を良く伺い、今回の旅行を「比叡山延暦寺と大津一湖都の路(新緑の古社寺めぐり)」(略して大津旅行)と名付けることになりました。

まずは大津市観光振興課に電話を入れて資料を入手し、交通手段・ホテル、見学鑑賞ルートについて概算費用などを調べました。

又、当会会員であり、フェノロサ研究の権威である山口静一先生に、篠崎さんから連絡を入れてアドバイスをいただき、3人の間で密接に連絡を取り、旅行の計画書を前号の会報に掲載、5月24～25日の1泊2日旅行計画で参加者を募りました。

会員からは14名のお申込みをいただき、これをベースに旅行代理店をあたったところ、JR東海の関係で品川駅構内にある東海ツアーズからJR+ホテルの格安関西旅行セットクーポンが発売されていて、当初案より1万円も安くなることが判りました。

参加者には宿泊希望か、新幹線とのセット購入希望かの回答を求め、旅行代理店の確認後にチケット(クーポン券)の購入、決裁方法をご案内しました。

この間、篠崎さんから山口先生に連絡を取られ、当日は先生がわざわざご参加いただき、法明院においてフェノロサ、ビゲロウについてのお話いただける手筈が整いました。ただ、先生がご懇意にしている法明院の阿闍梨滋野敬淳師のご都合で、法明院を尋ねる日取りが一日繰下げられ、比叡山延暦寺は前日の5月24日に訪れることになりました。

旅行の直前に、幸野真士氏の入院手術の日程が入り、幸野夫妻が不参加という事態が生じましたが、代わりに藤崎先生ご夫妻と、ボストンから来日中であった吉野耕一先生のご参加があり、変更が生じました。

幸いなことに、この直前の変更も東海ツアーズの方で、予約変更の手配を受け入れてくれましたので、何のトラブルもありませんでした。ホテルの手配も、当初は琵琶湖ホテルが予定されていました。しかし申込みの時には大津プリンスホテルに変更されましたが、宿泊してみて、これが正解でした。

当日、参加者は東京駅午前8時33分発ののぞみ63号に、始発駅、又は最寄り駅から乗車するように求めました。昼食は京都到着前に車内で済ませることにして、参加者は指定席で乗車の方、都合で自由席の方に分かれ、さらに京阪電車石山坂本線石山駅に直行された方、様々なルートで参加されました。

当日、幹事間で旅行コースをチェックした結果、当初予定のJR京都駅でのJR琵琶湖線への乗換と、JR石山駅での京阪電車の石山坂本線での乗換に敏速に行動することになりました。

京都駅では東海道本線ホームに11時前に新幹線組が落合い、JR石山駅に到着(11分)、駅の外で藤崎先生夫妻も合流し、京阪石山駅から石山寺駅(3分)に到着、徒歩(10分)で石山寺に向かい、石山寺には11時半過ぎに到着しました。

石山寺は琵琶湖に注ぐ瀬田川西側伽藍山の麓に位置し、新幹線の鉄橋越しに瀬田の唐橋が望める場所に建てられている。当日は晴天に恵まれ、境内を散策し、源氏物語の作者である紫式部ゆかりの展示品を見ることができました。(約1時間半)

石山寺拝観後、比叡山延暦寺に向かうことになったが、事前に琵琶湖タクシーに連絡を入れておき、石山寺駅から京阪石山坂本線近江神宮前駅(24分)に向かった。同駅前にはタクシー(5人乗り、又は6人乗りあり)3台を手配し、延暦寺根本中堂までタクシーで向かいました。(料金約2500円前後)

お陰で、京阪電鉄と比叡山坂本ケーブルを使って行くより、随分と時間も費用も節約できました。

比叡山延暦寺では、総本堂である根本中堂を中心に東塔と比叡山国宝殿の見学が目一杯で、西塔、横川は次の機会と言うことになりました。(2時間余)

根本中堂からケーブル延暦寺駅までは徒歩(10分)、途中、西日に輝く琵琶湖を良く眺め、ケーブルカーでケーブル坂本駅に下り(11分)、そこから紅若バスでJR比叡山坂本駅に移動(7分)。同駅からJR湖西線で山科駅(8分)、山科駅からJ

R琵琶湖線で大津駅(4分)に辿り着きました。

大津駅から少し離れた場所にはシャトルバスの出迎えがあり、午後6時過ぎには大津プリンスホテル(38階建)に到着しました。湖岸に建てられたホテルの部屋からの眺望は素晴らしく、全室から琵琶湖を眺めることができました。

夕食は午後7時に予約しておきました。マルモラーダ特製ディナーバイキングでした。夜景を楽しみながら、乾杯し、ゆったりした気分で食事を取り、遅くまで歓談していました。その夜は、やや広めの部屋(14階)に置かれたツインベッドで心地よく睡眠をとることができました。

翌朝は小雨模様、ホテル最上階のレストランでの朝食後、篠崎さんが法明院までタクシーを手配され、タクシーに分乗して約10分で到着しました。

タクシーを下車して6~7分歩いたところに法明院が緑に包まれて佇んでいました。朝早く東京を立たれた山口静一先生が到着されており、ご住職とご一緒に、我々を出迎えていただき、本堂に通されました。(午前10時頃)。

本堂には仏像が安置され、フェノロサ、ビゲロウのお位牌・写真も飾られていました。障子戸は明け広げられ、雨に霞む琵琶湖が一望できました。

フェノロサ学会会員のスコット・ジョンソン関西大学教授(大津市在住)、幹事の岩井隆興さんも参加され、全員が本堂の畳に座り、ご住職の読経・法話のあと、山口先生からフェノロサ、ビゲロウのお話を伺いました。

山口先生のお話(別項参照)は大変面白いものでしたが、フェノロサ、ビゲロウが仏教に改宗した理由の一つに、ブッダは異教の神々に変身すること、キリストもその一例に過ぎないと感じたことを挙げられました。面白いお話ですね。

この後、米国から持ち込まれた遺品や写真を拝観後、参加者全員の記念写真を藤崎博也先生が撮影、雨中、フェノロサ、ビゲロウのお墓に参拝(約1時間半)、ご住職、山口先生にお礼を述べ、雨中、徒歩で園城寺(三井寺)に向かいました。(30分)

三井寺本堂の金堂は修復作業中のために外側は天幕で覆われていたが、鐘楼、弁慶の引摺り鐘、釈迦堂などを拝観、見学後(1時間半)、境内の駐車場脇の茶屋にて昼食をとり、午後2時現地解散となりました。

帰路、直接帰京した方々、相国寺で開催されていた若冲展を見て京都に1泊した夫婦、沖縄まで足を伸ばした夫婦、天の橋立に立寄る組、等々、皆が旅行を楽しんだ大変意義ある合同企画でした。

## 大津旅行

日程: 5月24日(木)~25日(金)

見学コース: 1日目 石山寺、比叡山延暦寺  
2日目 法明院、園城寺(三井寺)

宿泊: 大津プリンスホテル  
(☎077-521-1111)

交通: (往路: 5月24日新幹線利用)

東京駅(発)	8:33	(のぞみ63号)
新横浜駅(発)	8:50	
京都駅(着)	10:53	
京都駅(発)	11:00	(東海道本線)
石山駅(着)	11:12	
	(徒歩 2分)	
京阪石山駅(発)	11:21	(京阪石山坂本線)
石山寺駅(着)	11:24	

石山寺駅(発)	13:29	
近江神宮前駅(着)	13:29	
	(タクシーで延暦寺根本中堂へ)	
ケーブル延暦寺(発)	17:00	
ケーブル坂本(着)	17:11	
ケーブル坂本(発)	17:20	(江若バス)
JR比叡山坂本(着)	17:27	
JR比叡山坂本(発)	17:34	(湖西線)
JR山科駅(着)	17:45	
JR山科駅(発)	17:51	(東海道線)
JR大津駅(着)	17:55	

交通: (復路: 5月25日 新幹線利用)

京都駅(発)	15:20	(のぞみ92号)
新横浜(着)	17:30	
東京駅(着)	17:46	

旅行代理店: JR東海ツアーズ品川支店  
☎03-6718-1031

旅行プラン名: ツリ-ツリ 琵琶湖 大津プリンス宿泊

費用: JR+ホテル ¥29,800

(当初の概算は¥39,000)

交通費・拝観料・お布施 10,000

夕食・昼食込み 一人 約50,000

## フェノロサ、ビゲロウと三井寺法明院 (I)

山口 静一

### 【1】はじめに

明治初期に来日し、ボストンと日本の間に橋を架ける役割を果たした3人のアメリカ人がいます。

\*エドワード・シルベスター・モース

Edward Sylvester Morse, 1835~1925

\*アーネスト・フランシスコ・フェノロサ

Ernest Francisco Fenollosa, 1853~1908

\*ウィリアム・スタージス・ビゲロウ

William Sturgis Bigelow, 1850~1926

このうち、フェノロサとビゲロウの2人が三井寺(正式には園城寺)法明院の墓域に眠っています。この二人がここに葬られるに至った事情については、すでに100年以上も過ぎている今日、なかなか明確には分かりませんが、今回、日本ボストン会の有志で三井寺法明院を訪ねましたので、この機会に幾つかの資料を手掛かりにしながら、できるだけ跡づけてみることにしました。3、4回連載の予定です。

### 【2】フェノロサ、ビゲロウの受戒

このことは『敬徳大和上畧伝』(三井寺 明治24年発行)という、桜井敬徳(1834-1889)上第三回忌にあたって弟子の町田久成(1838-1897)が和様漢文で記し、巻頭に敬徳の肖像写真を掲げた小冊子(6ページ)の中で述べています。元老院議員であった久成は師の示寂を機に剃髪して僧籍に入り、園城寺大僧都光浄院住職の地位にありました。ちなみに久成の墓も法明院にあります。

この『畧記』の一節に「十八年九月留錫於東京小梅村町田氏宅受戒乞教者多米国人普恵廻芳佐美芸郎等亦請師受戒屢来問法義授法号美芸郎曰月心普恵廻芳佐諦信又為二信士講梵網菩薩戒經」があります。

十八年九月、巡錫中の敬徳師は東京小梅村にあった町田久成の別宅に止宿。戒を受け教え乞おうとする者が多かった。フェノロサやビゲロウらもまた師に受戒を請い、しばしば訪れて仏教法着の質問をした。師はビゲロウに「月心」の法号を、フェノロサには「諦信」の法号を授けられた。また二人の信士のために梵網菩薩戒經を講じられた、と読むことができます。

ビゲロウの与えられた法号「月心」は「月のように澄んだ心」を連想させ、フェノロサ「諦信(たいしん)」の「諦」は仏教では「真理」また「悟り」を意味します。

梵網菩薩戒經とは梵網經に説く菩薩戒ということでしょうか。菩薩戒は一般に止悪・修善・利他の三面に及ぶ戒律ですが、梵網經ではこれを具体的に十重禁戒・四十八輕戒として説いています。

二人のアメリカ人は在家仏教の信者としてこの戒律を守ることを誓い、キリスト教から改宗したことになります。『日本天台宗年表』によれば明治18年9月21日の出来事でした。

当時の新聞各紙は一斉にこのニュースを伝えました。例えば『東京日々新聞』(明治18年9月30日)

「フェノロサ仏門に入る — 東京大学哲学教師フェノロサ氏は、今まで理学数理を以て世間事物の道理を講究せられたるに、最早欧米諸国の実理学を以て推度すべき丈は既に大概講究し了りたるも、其外に色心二法の実理に至りては未だ欧米学士の講究し能はざるもの数多あれば、之れを究めばやと先頃より仏教を学ばるるに、大いに悟る所ありとて近頃は専ら仏学を修められ、且つ此程は天台宗寺門派の桜井敬徳阿闍梨に就きて菩薩戒を受けられたりと、本年九月三十日刊行の『明教新誌』に見ゆ」

色心二法とは物質と精神との関係を研究すること。教会に通い洗礼を受ける青年男女の多い文明開化の世相の中、欧米人がキリスト教から仏教に改宗したことは大変なニュースだったことでしょう。『明教新誌』とは当時の隔日刊仏教誌です。

### 【3】登場人物のプロフィール

三井寺法明院の桜井敬徳(天保5年生まれ)は明治18年現在51歳。信者に授戒できる阿闍梨の資格を得たのは30歳のときでした。厳しい修行と高い学徳で知られ、明治5年新設教部省より教導職を任じられます。教導職とは一般国民教化のために日

『フェノロサ、ビゲロウと三井寺』 つづき

本各地を巡回説法する僧侶で、これは明治17年6月の記録ですが、敬徳は中教正の地位にありました。教導職の職制は大教正を頂点として14の位階(大中少の教正、大中少の講義、訓導の3段階で、それぞれに「権(カ)」付きの予定者を置く)がありましたので、かなり高位に属します。

現在の愛知県常滑市出身の敬徳は、尾張藩士から司法省大審院判事となった青木信寅(天保6年生まれ)と親しかったと法明院に伝えられています。信寅は明治14年10月函館控訴裁判所長官として転出、同19年9月24日同地で病死しました。法明院蔵敬徳資料の中に、明治20年付けで「法明院信徒総代、愛知県士族青木重彦、鹿児島県士族床次正精、鹿児島県士族町田久成」と、3人が自署捺印した文書が残っていますが、この青木重彦は信寅の嗣子ですので、信寅は生前は信徒総代の筆頭だったと思われまふ。床次正精(とこみまさし)(天保13年生まれ)は信寅と同じ司法官僚で、東京や仙台の裁判所で検事を務めた人物です。肖像画の才を認められ、明治15年には宮内省、のちに農商務省御用掛となって博覧会関係の仕事をしました。法明院信徒総代になったのは信寅の懇意だったかもしれません。

町田久成(天保9年生まれ)がいつ、どのような経緯で敬徳と知り合ったのか実ははっきりしません。「日本天台宗年表」は、明治16年4月3日「元老院議官町田久成、法明院敬徳律師を拝し八斎戒を受く」と記していますが、久成の元老院入りは2年後ですので、これは後年の記入。敬徳自身の日誌「戒忍日志」同年5月8日の項に「町田久成居士正五位来参・・・八斎戒を伝授」とあります。「居士」と称されていること、また「八斎戒」は在家の五戒に衣食住の具体的節制を加え8条とし、出家生活に一步近づく意義をもつ戒律であることから、久成が敬徳の信徒になったのはもっと以前のことだったと考えられます。清沢満之の弟子だった大谷大学の佐々木月樵は、両者の出会いを「京都での病気が逆縁で受戒し云々」と言っていますが、具体的なことは分かりません。

わが国文化財行政の父、博物館事業の創設者だった町田久成は明治15年10月19日、農商務省大書記官博物館局長博物館長を突然解任されました。「依願免本官」ですが理由は未だ謎に包まれている

す。東京国立博物館裏庭に歴史学者重野安鐸(やすぶ)の撰になる久成顕彰碑があります。それには藤原藤房や熊谷直実の故事が引かれ、久成があたかも時の施策と相容れなかったことを暗示するように書かれています。

実際、文化財を「考古の徴証」として重視する久成の見解と、「殖産興業」の資として外貨の獲得を狙う政府の方針とはかなりの開きがありました。

例えばウイーン万博出品の日本物産図説をもとに政府は明治9年、殖産興業の基本として国産物品の製造課程を図説した『教書(おしえ)』を博物館蔵版として出版しましたが、陶磁器、漆器、銅器、製茶、養蚕、織物、日本紙など各種産品が解説されるなか、久成が詳細に紹介したのは菅菴園の図に寄せた「鷹狩一覽」でした。

明治14年、久成が局長だった博物局が新設の農商務省管轄となり、翌年同省少輔として品川弥二郎(長州藩出身、天保14年生まれ)が着任、久成の上司となります。あるいは品川との間に確執を生じたのかもしれません。いずれにせよ豪放磊落、無欲恬淡で知られ、逸話に事欠かなかった人物だけに、この辞職は大いに世間を驚かせたことでした。

退官に際し政府は下賜金と共に長年の功勞を賞して従五位から正五位に叙し、翌年正倉院移管問題など久成不在では進捗不能の業務を遂行するために農商務省御用掛に再任、明治18年3月には元老院議官に任命しました。

三井寺の桜井敬徳阿闍梨を拜して受戒したニュースもまた東京の人士を驚かせました。青木信寅の函館転出後、いつしか敬徳が巡回布教中上京の際は久成の小梅村(現墨田区白鬚橋の東岸)別邸に止宿することを知って小梅村詣でをする人々が次第に多くなりました。

増上寺の福田行誠上人も訪れ蜂須賀茂韶侯爵夫人を始め、のちに内相となる宮内省の副島種臣、官を辞して実業界に入り美術事業を奨励した河瀬秀治らが小梅村で敬徳に受戒しています。文部省美術行政官でフェノロサの鑑画会活動に協力していた岡倉覚三の受戒は明治18年9月15日。その6日後にフェノロサ、ビゲロウが受戒したわけです。(続く)  
(埼玉大学名誉教授、前名古屋ボストン美術館長)

昭和9年新年会署名

# 三井寺法明院で偲んだ

## ボストン地区留学生

三好 彰

ボストン美術館所蔵の日本の美術品は、明治期に  
来日したフェノロサとビゲロウが収集したものが母  
体になっている。この二人は仏教に深く帰依し、仏  
教徒となって滋賀県大津市の三井寺法明院に葬られ  
ていることはよく知られている。

このたび美術の会と歴史を飲もう会が合同で企画  
した大津旅行(略称)に参加して、長い間の夢だっ  
た法明院を尋ねることができた。(別項参照)

当日、山口静一先生から最新のご研究の成果を踏  
まえて二人の業績を教えていただいた。それで感慨  
を新たにした上で、強い雨の中を二人の墓に詣でた。

そこで驚いたのは、墓所の前に、ジェームズ・ウ  
ッツ博士が岸本英夫博士の恩師であるという案内板  
が立てられていた。そしてビゲロウの墓の一郭にウ  
ッツ博士の供養塔があった。

ウッツ博士はハーバード大学の哲学の教授である  
が、昭和初期に来日しフェノロサとビゲロウと同じ  
法明院で受戒した仏教徒であった。

日本ボストン会ではボストン地区の留学生の記録  
を調査しているが、ウッツ博士は明治44年2月に  
現地で開かれた日本人学生会の会合に招かれており、  
「ハーバード大学に日本人の客員教授を迎えること  
になった」という報告をしている。この客員教授に  
なったのが宗教学者の姉崎正治・東大教授だった。

姉崎教授は日本人学生会の会合の常連メンバーと  
なっている。また学生に講演もした関係で署名が残  
っている。

専門分野が同じだったウッツ博士と姉崎教授は生  
涯にわたり、公私両面で親交を深めたことが知られ  
ている。

ところで、岸本英夫博士の夫人は姉崎教授の長女  
(三世さん)である。岸本博士は昭和初期にハーバ  
ード大学で教鞭をとり、親子二代に渡りウッツ博士  
と同じ学問分野で研鑽されたのだった。

昭和9年の新年会などに岸本夫妻は出席して署名  
を残している。この新年会には経済学者の都留重人  
氏、数学者の池原正弼氏、作曲家の大澤寿人氏、  
庭園家で当時ハーバード大学講師だった下山重丸氏  
などの錚々たる人々の顔が揃えている。

昭和九年一月五日 彰

岸本英夫博士  
岸本夫人  
大津市  
三井寺法明院  
ウッツ博士  
山口静一先生  
美術の会  
歴史を飲もう会  
大津旅行  
三好彰

留学生の記録は紙の上で止まったままだが、この  
ようにボストン地区で活動していた4人もの人々を  
法明院で再認識することができて、冷たい雨の中で  
心に熱いものを感じていた。

話はこれだけではない。明治29年に京都を訪問  
したフェノロサ夫妻の通訳をした平井金三を山口先  
生が調べておられるので若干のお手伝いをしたのだ  
が、姉崎教授が最初に英語を学んだときの先生が平  
井であった。

平井は現在の東京外国語大学、早稲田大学、東京  
大学、筑波大学などの前身にあたる学校で英語を教  
えた英語学者であるが、一時期京都で私塾を開いて  
英語を教えていた。その時の生徒の一人が後の姉崎  
博士というわけである。平井は仏教学者でもあった  
ので、博士にとってはその面の影響も大きかったこ  
とだろう。

ところでフェノロサ夫人(メアリさん)もフェノ  
ロサやビゲロウに続いて、この法明院で受戒を受け  
ている(明治29年9月28日)。夫人は日記を残  
しているが、受戒を受ける前の週に夫妻は人力車で  
法明院を訪問しており、そのとき平井は同道してい  
たのだった。

ウッツ博士の供養塔がビゲロウの墓域内にあるの  
は、ウッツ博士が仏教に関してはビゲロウの後継者  
であったためである。岸本博士が二人の仏教上の関  
係をハーバード大学の機関紙に投稿していた。

遠い歴史上の人物と思っていた人々が、ボストン  
地区の留学生の記録を通して法明院で生き返った思  
いがした。ありがたいことである。

## フェノロサとその周辺

篠崎 史朗

当会で「ニューイングランド交流の記録」を企画した頃(\*)、天心岡倉覚三に関連して、フェノロサとビゲロウの二人には特に強く惹かれたことがあった。(※ 会報#12、1頁、1998年)

拙文「もう一人の特使：天心 — ボストンでの初年」では、“師弟と言う関係は別にして、天心にとって人生の恩人はと問えば、フェノロサともう一人ビゲロウだ”と、素人ながら、その頃のおもいを記述した。(要旨紹介、同#15、5頁、2000年)

しかしながら、天心に関しては、全集もあり、評伝や多くの参考書籍が出版されているので、調べる上で材料に事欠かないが、いざフェノロサやビゲロウとなると、入手可能な書物の記述も凡そ断片的で、門外漢にとっては、全体像の理解など甚だ困難のように思えた。

結局、大学図書館で出逢った「アーネスト・フランシスコ・フェノロサ — 久富貢著 中央公論美術出版1980年」を主たる参考文献としたが、疑問や割り切れぬ点をのこしたままとなった。

その後、青山の美術館主催の「天心研究会」で、フェノロサ研究の第一人者として、山口静一先生が存在を知り、私信でフェノロサ離婚の真因などについてお尋ねしたことがあった。

これが当会と先生との最初の接触だったと思う。同時に、先生に「フェノロサ(上)、(下) — 三省堂出版1982年」の著作があることを知り、早速神田の古書店で探してみたが、売り物がなく、結局諦めざるを得なかった。

ところが、本年5月の当会の大津旅行の直後、偶然東京駅八重洲口の古書店でこの著作を見つけ、入手することが出来、園城寺墓参直後でもあったので、殊更強い興味を持ってこれを読むことが出来た。

この著作は日米文化交流の原点を探る作業の一環として、長年月を費やして収集した資料を駆使して、フェノロサの人物像とその周辺を、時代を追って、多角的、総合的に浮き彫りにした本格的な大作の評伝である。現在、フェノロサに関する著作としては、これ以上のものは期待しがたいであろう。

山口先生には、墓参に際して、最新の史実を交えてご講義いただき、旅行は大変感銘深いものとなった。更に当会会報に連載で「フェノロサ、ビゲロウと法明院」をご寄稿して頂ける由。大いに楽しみにしている次第である。



写真撮影 篠崎

三好氏

篠崎夫人

山崎氏

スコット先生  
滋野阿蘭梨

山崎夫人

酒井氏

山口先生

三好夫人

吉野先生

酒井夫人

藤崎先生

俣野夫人

藤崎夫人

俣野氏

法明院記念写真

吉川さん

水野さん

## 地球シミュレーター見学記

### 三好 彰

ある会員から地球シミュレーターの紹介を受けた。超高速コンピュータ(スーパー・コンピュータ)を使って地球規模の諸問題の解明に取り組んでいるという。話をきいてから日増しに見学したいとの希望が強くなった。

数日後に、我が会で見学するのはどうだろうと提案したところ、その方がスーパー・コンピュータに詳しい酒井幹事に相談された。酒井幹事は直ぐに調べられて、終日に限るが予め申し込んでおけば見学できることが分かった。この機会に近くの森林公園をハイキングすることにして、ハイキングの会の幸野幹事に受け皿になっていただいた。

4月3日(火)9時半にJR根岸線の新杉田駅で参加者7名(酒井夫妻、森夫妻、幸野夫妻と三好)が落ち合った。あいにくの雨であり、満開のサクラには気の毒な花冷えであった。

地球シミュレーターは独立行政法人の海洋研究開発機構が2002年3月から運用を始めたもので、当時は世界で一番速いスーパー・コンピュータだった。現在でもむしろ世界でトップ級である。このスーパー・コンピュータは日本電気(NEC)が開発したものである。

最初に館内の会議室で、専門家の方から技術的に詳しいお話を聞くことができた。免震構造の建物に収められているコンピュータ室は巾50メートル、奥行き65メートル、高さ17メートルもあり、ソフトボールでも出来そうな広さだった。真ん中にコンピュータ相互を接続する結合ネットワークがあり、それを取り囲むように320もの筐体が配置されていた。1つの筐体は2台の計算機(プロセッサ)が入っているのだから、全体としてこのスーパーコンピュータは5,120個のプロセッサで構成されている。

このスーパー・コンピュータの性能は8 Gflops(ギガ・フロップス)という。1秒間に80億回もの計算ができるわけなので、世界中の人が同時に一秒で一回の計算をできるとしても到底かなわない速度である。

なお建物全体としてコンピュータを電磁障害から保護する工夫もされているという。コンピュータは半導体で作られているが、電磁波の影響を受けるとうまく動作しないことがあるためだそうだ。

このスーパー・コンピュータを使って行われている研究の一端を伺った。地球の温暖化の予測、地震や津波などによる地殻変動、海底を含めた自然資源の探査など地球規模での大掛かりな模擬実験(シミュレーション)が行われているのを知った。それ故このスーパー・コンピュータを地球シミュレーターというのだ。その他に自動車の構造設計や安全設計などの非常に巾の広い研究(模擬実験)も行われているとうことだった。

地球情報館という展示室には半球状のスクリーンがあった。これは地球の半面を自在に回して見ることが出来る装置であり、津波の伝播、海流の温度分布などが分かりやすく表示されていた。視覚的に楽しい画面の裏側に、最先端のハイテクがあるのを認識した。

スーパー・コンピュータを構成する半導体とそれを収めた筐体の実物が展示されており、日本が世界に誇るハイテクに肌で触れることが出来て感動的であった。

海洋研究開発機構では海底探査機を使った深海の調査研究も行っている。深海の調査施設は横須賀にあるのだが、ここでは調査の様子を紹介したビデオを見ることが出来た。深海の不思議な生物と貴重な鉱物資源の映像は美しく、また楽しいものだった。立体映像でシミュレーションの様子を見ることのできる装置もあった。圧倒されるほどの迫力であった。

思わずのめりこんでしまい、予定の時間を越えてしまった。外に出ると雨は小降りになっていたが、ハイキングは諦めて酒井夫人のお勧めで外人墓地のそばのレストランに向かった。この店はフランス山の一角にあり、坂道を少し登るのがハイキング代わりでもあった。店内はゆっくりとしており、ハウス・ワインでいっそうくつろいだ。なによりも明治維新前後は外人居留地であったところのそばでフランス料理をとることに格別な感慨があった。

レストランを出ると雨は止んでおり、ほろ酔い気分には浜風がことさらに心地よかった。雨のため野山をハイキングすることは出来なかった。しかし町歩きをして食べ歩きをするのは頭とお腹にとって恰好のハイキングだと思った。

美術の会

## モイズ・キスリング

Moïse Kisling, 1891~1953

ポーランド生まれのキスリングは1910年にパリに来る。社交好きで明るい彼は、数週間の内にモンパルナスのプリンスと呼ばれる様になる。彼のアトリエには有名、無名の画家、小説家、詩人達が集まり、芸術論に花を咲かせたと言う。「そごう横浜」で開催された「キスリング展 — その青春と哀愁」(7月26日~8月26日)を鑑賞する。

1914年世界大戦勃発、ドイツ人と結婚したマリー・ローランサンは夫と共に中立を保っていたスペインに亡命。1920年に帰国する。その頃、キスリングはマリー・ローランサンの肖像(1920)を描く。この作品にみられる様に、立体感のない描き方はローランサン描く作品に似ている。何も飾りのない背景、ローランサン自身が強調されている。胸の大きくあいたドレスの中央につけられた赤いコサージュが見る人の目をひきつける。

キスリング描くプロヴァンス地方の女(1923)はキスリングの妻の母の肖像画である。モデルはプロヴァンス地方のちょっと変わった帽子と衣装を着て、彼女の手は膝の上で交差している。この頃画家達が好んで描いた手のポーズである。キスリング描く女性肖像画は無表情であるが、この作品のモデルは口許に笑みを浮かべている。静かではあるが、強いまなざしの中に妻の母の強い意志が伝わってくる。

1933年、赤いワンピースに、赤地に白の水玉模様のスカーフをまとったモンパルナスのキキ(1901~1953)を描いている。無表情で空を見つめる大きな目、実際にこの絵を眼の辺りにしてみると、赤の鮮やかさに驚かされる。色彩の効果を重んじたキスリングの作品の一つである。キキはブルゴーニュ地方の田舎町からパリに出て来て、モンパルナスの画家達のお気に入りモデルになった。彼女自身も絵を描く様になる。1929年に起きた世界恐慌により、モンパルナスの輝かしい日々は終わりを告げ、モンパルナスの北に位置するサン・ジェルマン・デ・プレへと移り、ここに集まった画家達の中からシュールレアリズムが誕生する。

(酒井 典子記)



マリー・ローランサンの肖像(1920)



プロヴァンス地方の女(1923)



モンパルナスのキキ(1933)

## クルーズの会2008年予定

紅葉狩り・スケッチ・ハイキング・忘年会の会

現在、一番人気の高いエーゲ海・黒海を組み込んだクルーズです。来年度のご案内をいたします。

1. 名称: 「黒海オデッセイ08」
2. 使用船舶: “クリスタル・セレニティ”  
(会報#23、2004年3月号参照)
3. 日程: 8月11日朝 名古屋空港発、バス(泊)  
8月12日 C.セレニティ 乗船、バス(泊)  
8月13日 ベニス 発  
8月15日 カタコロン、ギリシャ  
8月16日 ミコノス、ギリシャ  
8月18日 ヤルタ、ウクライナ  
8月19日 オデッサ、ウクライナ  
8月20日 コンスタンツァ、ルーマニア  
8月21-22 日イスタンブール、トルコ  
8月24日 アテネ下船、空港へ  
8月25日朝 名古屋空港着
4. 参加費: 未定
5. 参加希望申込先: 久米生光

## 猪鍋を食う会 (計画案)

1. 開催日: 12月2日(日)
  2. 集合場所: 小田急線 本厚木駅 東口下車  
厚木バスセンター⑨番乗場
  3. 集合時間: 午前8時35分 8時40分乗車  
(33系統七沢行き)  
(スナック・紅葉狩りの会希望者には別途に設定)
  4. ルート: 広沢寺温泉入口(午前9時15分)  
鐘ガ岳ハイキングコース入口(9時30分)  
鐘ガ岳頂上(11時) 浅間神社お参り  
下り山ノ神経由光沢温泉(12時30分)  
バス 12時55分 本厚木行き  
七沢温泉入口下車、徒歩3分
  5. 会場: 和風料理“おかめ” ☎046-248-5511  
(厚木市七沢246-1)午後1時30分開始
- HP: <http://www.atsugi-rush.jp/okame/index.php>
6. 会費: 食事代約3千円、飲物代別。
  7. 申込先: 當間秀夫  
e-mail

## ゴルフの会のお知らせ

日時 07年10月19日(金) 午前9時スタート  
場所 川崎国際ゴルフ場  
プレー費 16000円(キャディさんつき)  
参加費 4000円(パーティ代、賞品代)  
申込先: 山崎恒  
前回; 4月27日(金) 川崎国際、15人参加  
優勝 山崎恒、2位荒金豊、3位山崎規矩子

## スケッチ会のお知らせ

1. 日時: 12月2日(日)
2. 集合場所: 小田急線本厚木駅中央改札口出口
3. 集合時間: 午前9時45分
4. ルート: 七沢温泉地域でスナック後、猪鍋の会合流
5. 申込先: 藤盛富美子

西川文夫

e-mail: ;

## 総会・懇親会のお知らせ (同封チラシ参照)

日時: 平成19年11月22日(木) 午後6時開場、午後6時半開会。  
場所: NEC三田ハウス芝クラブ (JR田町駅、都営地下鉄三田駅下車)  
港区芝5-21-7、☎03-5443-1400  
出席者: 当日払い お一人 6000円/同僚者5000円  
事前送金 お一人 5000円/同僚者5000円  
送金方法:

申し込み先: 日本ボストン会事務局 (同封ハガキ、又はE-mailにて11月10日までに  
お知らせ下さい。

日本ボストン会の活動はホームページにてご覧下さい。 <http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~boston/>